地質ニュース563号，61－69頁，2001年7月
Chishitsu News no.563, p.61－69, July, 2001

【石の俗称】

亀と石

加藤　碩一[1)]・遠藤　祐二[2)]

1. はじめに

「もしもし，亀よ」とか「昔々，浦島は助けた亀につれられて」などの童謡や童話はわたしたちにとってなつかしくまたなじみの深いものです．徳島県日和佐町には日本唯一のウミガメ専門博物館「日和佐うみがめ博物館カレッタ」というのがあるくらいで，夏の産卵期にはアカウミガメが近くの大浜海岸に上陸して産卵するのを保護観察しているそうです．そこで今回は，私達に親しみ深い亀について，さらに亀と石についてこじつけというか蘊蓄というか（ものは言いようですが）を少々ご披露しましょう．しばしお付き合いのほどを．

亀は爬虫類カメ目の総称で，古生物学的には，①プロガノケリス類，②両亀類，③曲頸類及び④潜頸類の4グループがあります．①は最古の亀類でヨーロッパの後期三畳紀のもので，首も四肢も甲羅の中に引き込めませんでした．②はジュラ紀・白亜紀に世界的に繁栄し，現代型の③や④との中間型でやはり首や四肢は甲羅の中に引き込めません．③は白亜紀に出現し，現在は南半球に分布します．首を横に曲げて甲羅に引き込めます．④が現在最も繁栄している亀で，ジュラ紀末に出現し，後期白亜紀に北半球で発展し，海生のものも現れました．大型のものも多く，首をS字状に縮めて真っ直ぐに甲羅の中にひっこめることができます．日本では白亜紀以降各地で亀の化石が発見されています（亀井ほか編，1981）．写真1は，④の類で新生代第三紀の中国産の亀化石です．中央部の黒っぽいのが海亀（×印）で，その周りの白っぽい甲羅は陸亀の化石（●印）です．例年新宿で開催されるミネラルフェアという鉱物・化石の展示即売会で撮影したものです．亀化石の小さいのは1個3万円だそうです．お小遣いでいかがでしょう．

さて，亀の異称を蔵六と言いますが，これは亀が頭や足など6つの部分を体内に隠すところから来ており，この6つを仏説にいう六根（眼・耳・鼻・舌・身・意）に例えています．庭石の組み方の一つである亀石組（亀組）もこれにならって原則的には六つの石を平面に配列します．すなわち亀頭石一つ，亀手石二つ，亀脚石二つ，尾崎石一つからなるわけです．例えば，石川県金沢市卯辰山公園内にある「紫雲山苑」には多くの奇岩が配置され，そこの「亀組」もその一つとして有名です．前述したように，人間と関わりのある現世の亀は③や④なのでこのような謂われがあるわけですが，もともとの亀の祖先は首や四肢を引っ込められたのではなく，進化してきたからなのです．

次にアジアを中心に亀にまつわる謂われを概観してみましょう．

最近何かと話題の多いネパールのカトマンズ近郊にあるパタン王宮のヤムナー女神の立像は甲羅でインドの大地を支えていると言われる亀に乗っ

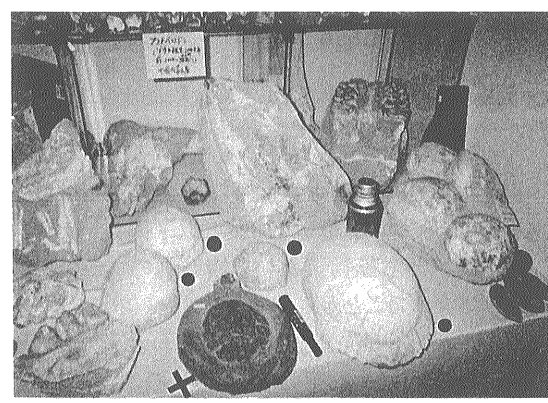

写真1　亀の化石．

1）産総研 地球科学情報研究部門
2）産総研 地質標本館

キーワード：亀，亀石，亀形石，亀甲石

ています．ヤムナー川はガンジス川の支流でインド北部のデリーやアグラを潤しており，両川とも擬人化されて女神として崇められたものです．古来，中国では亀は万年の長寿を保つ霊獣とされ，例えば，渤海の東に位置していた蓬莱山が波のまにまに上下してきわめて不安定だったため，仙聖の訴えによって，天帝は大亀15匹をもってこの山をいただくように命じ，以後固定したといいます．これより蓬莱山は「亀山」とも「亀の上の山」とも呼ばれるようになりました．紫式部の「源氏物語」胡蝶の巻に『亀の上の山も尋ねじ船の内に老いせぬ名をばここに残さん』とあるのはこれを踏まえています．

さらに，受け売りの蘊蓄を述べさせていただくと，亀卜とは，古代中国，殷の時代に盛んに用いられた最高位の占いを言います．亀の甲に錐で穴を開け，焼いた木の棒を揉みこみ，生じたひびの形（兆し）で吉凶を占うものです．兆しには，雨（う），晴（せい），蒙（もう），駅（えき），克（かつ）の5つを基本に120の型があると言われています．これをもとにした判定の言葉を頌（しょう）といい，韻文で1,200あったそうです．その後周時代以降には亀卜は，易による筮（ぜい）に取り変わられ衰退しました．

このように中国の影響を受けて日本でも亀は親しまれてきました．亀を描いたものとしてわが国で歴史的に有名なのは，奈良県生駒郡斑鳩町の中宮寺が所蔵する7世紀に聖徳太子を偲んで天国の様子を表したと言われる「天寿国繍帳」にある亀の図案で，ほぼまん丸な甲羅が特徴的です．

では，石の世界における亀の大活躍を紹介しましょう．

2. 亀の石細工品

亀もこれだけ馴染まれていると，いろいろな材質でその置物を作り身近に飾ることは洋の東西を問いません．まずは，筆者（加藤，以下同じ）の亀コレクションのうち鉱物製ないし岩石製のもののごく一部を紹介することから始めましょう．

『鶏が先か卵が先か』とは良く言われますが，とりあえず卵から．「亀卵石」というものがあります．本物の亀の卵はピンポン玉のような丸いものですが，ここでは写真2にあるような白ないし乳白色の鶏卵状の石で，長径約5cm，短径約3cm程度です．過日，とある中国物産展で買い求めたものです．ガラスの器に水を張って，その中にたくさん入れてありました．値札には「亀卵石（観音石）」とも書いてあり，その由来を尋ねたのですが，店員の中国人はあまり日本語が話せないので詳しいことは判らずじまいでしたが，中国では有名な石だというのです．本物は天然に摩滅されてできたものでしょうが，ここで売っていたものはいかにもうさんくさく人工的に削って磨いたものでしょう．石は玉髄の一種のメノウ（agate）で，まさにSiO_2です．透かしてみると橙赤色の弧状の光が見えるので本物だというのですが．

次はやはり中国産の亀の形に成形した亀型石です（写真3）．石そのものは堆積岩の一種で泥の固まった粘板岩の類で，背中の部分にある放射状の白い紋がいわゆる菊花石でこれは，前々回にご紹介しました（遠藤・加藤，2001）．

写真4の1の亀型石は，マンガン鉱製で中国で求めたものです．ピンクの地（薄い色の部分）と黒の地が入り組んで複雑な模様を呈しており，それが

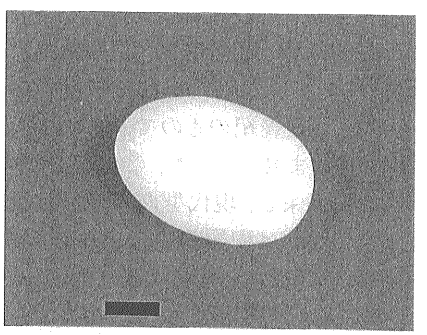

写真2　亀卵石（黒線は1cm）．

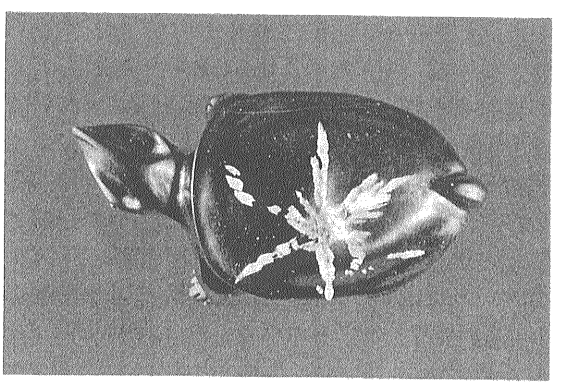

写真3　亀形の菊花石．

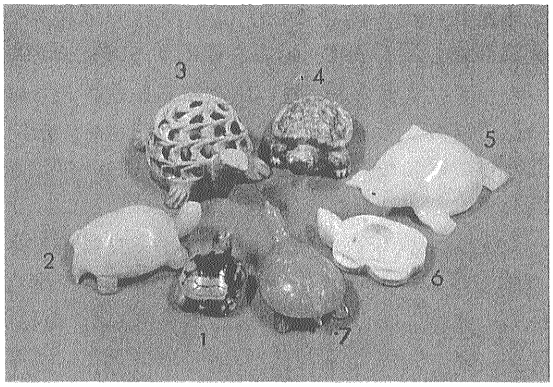

写真4　亀の石細工品（番号ごとの説明は本文参照）.

独特の味わいを醸しだしています．前者はバラ輝石，後者はハウスマン鉱です．石材名としては「紅紋」とも称されています．バラ輝石の一般的な組成は，$MnSiO_3$で，マンガン以外にもカルシウム，マグネシウム，鉄などを含む事が多いのです．硬度は6前後でやや硬めです．柱状結晶の集合体として主に高温交代型の鉱床中に産出します．和名・英名（rhodonite）共に鉱物の色調のバラ色（rose）に由来しています．ハウスマン鉱（hausmannite）は，ドイツの著名な化学者J. F. L. Hausmann教授の名に因んで命名されたもので，和名では「黒マンガン鉱」とも称されます．酸化マンガン鉱に属し，硬度は5～5.5で，マンガン鉱石として重要な鉱物の一つです．

写真4の2は，軟玉（nephrite）製でごく薄い緑色をしています．軟玉はいわゆる玉（ギョクと読みます．半透明で薄緑色の美麗な宝石を総称し，古来中国を始め東洋で珍重されています．芸者ないし芸者に払う料金（玉代）や売買契約した株，オデン屋でタマゴのことなどもギョクといいますが，ここでは関係ありません．そんなら書くなと言われそうですが）の一種で陽起石や透角閃石などからなり，装飾品に良く使われています．広義の翡翠（ひすい）に含まれますが，宝石として価値があり，本来翡翠と呼ばれるべきは硬玉ともいわれるジェード輝石です．日本人観光客がよくみやげ品でだまされて買うのは軟玉です．当然のことですが，筆者は地質の専門家ですから軟玉と百も承知して相応の値段でこの亀型石を買い求めています（値段はとても言えません）．緑色はともに含まれている微量元素のクロム（Cr）が原因です．

写真4の3は，インド製の亀の細工品で，マドラスで求めたものです．『親亀の背中に子亀を乗せて，子亀の背中に孫亀のせて…』という漫才のネタがありましたが，これは『親亀の腹中に子亀を入れて…』というわけで，中に子亀が彫られています．薄緑色の葉蝋石で作られています．いわゆるロウ石の主要構成鉱物で，硬度が1～2と柔らかいので印材や細工物に良く使われるものです．また耐火性にも富んでおり各種の耐火物としても利用されます．英語名のpyrophylite（パイロフィライト）は，ギリシャ語のpur（火）とphullon（葉）から命名されたものです．それにしても図案化した亀甲形の部分をよくくり抜いたものです．

写真4の4は黄色地に黒っぽい斑点模様が散っており，豹の毛皮のような紋様から石材名としては「レオパード」とも称されています．岩石学的には球顆流紋岩です．球顆（スフェルライト，spherulite）というのは，普通径が2～3cm以下の球～楕円体状のもので，針状の長石や細粒の珪酸鉱物などの放射状集合体からなり，珪長質の火山岩中に見られます．また，この岩石は「鹿の子石」とも俗称されることもあり，青森県津軽地方一帯に分布する珪酸質岩石の総称である「錦石」の一種でもあります．

写真4の5は，白っぽいオニキス（オニックス）製のややユーモラスな形状の亀形石です．横から見ると縞模様が見え，「シマメノウ」とか「シマ大理石」とも称されます．よくテーブルや花瓶・灰皿などに加工されているのはご存じでしょう．ところで，本来のオニックス（縞メノウ）と呼ばれる飾り石は，石英と同じ二酸化珪素です．同じような縞模様を持つ大理石（石材名でマーブルともいう．結晶質石灰岩のこと．炭酸カルシウムを主成分とする）がメノウの代用品として流通する間にいつしか（あるいは意図的に）両者が混同され，「オニックス・マーブル」なる奇妙な商品名が定着してしまいました．地質研究者たるものその違いをよく認識しておきましょう．念のため．

写真4の6は白～灰白色の石灰岩製です．日本で買い求めたものですが，どこ製かはわかりません．化石が含まれていますが詳しくはわかりません．背中に大小の穴が開いているのも何だかわかりません．

写真4の7は，緑色の一見軟玉のような材質ですが，ガラス製です．もちろん鉱物ではありません．繰り返しますが，筆者は地質の専門家ですからガラスと百も承知して相応の値段で買い求めています（値段はとても言えません）．だんだんともうどうでもいい気分になってきましたがこのままでいいというわけにもいきません．気を取り直して目を戸外に転じてみましょう．

3. 人為的な（異地性ないし人手が加わった）「亀石（岩）」

洋の東西を問わず亀のモチーフは石製のものに限ってもかなり普遍的に知られ，いろいろ謂われがあるものが多いのです．ここでは天然の岩塊に加工して亀形にしたものや，多少でも人為を加えたものを紹介しましょう．

まずは近頃なにかと話題の多い遺跡がらみの「亀石」から始めましょう．

亀の石造遺跡として最近の話題は，何といっても奈良県は明日香村の有名な酒船石の北方約75mの地点で見つかった亀形の花崗岩製水槽です（写真5）．約1,300年前の飛鳥時代（一説では斉明天皇の時代）の遺跡の一部で，2000年2月に村道建設工事中に偶然発見されたものです．遺跡自身は東西約35m，南北約20mで，その中心の平坦部約12m四方には人頭大の石が敷きつめられており，その南端にデザイン化された亀形の水盤状石造遺物が位置しています．全長は約2.4mで，直径約1.6m，深さ約20cmの円形水槽をなす胴体部分に，南を向いた亀の頭と4本の脚や尾に相当する部分もあります．亀頭の南側には小判形の石の水槽もあります．さらに，尾の先から長さ約10mにわたって水路状の溝が延びており，その反対側延長部に酒船石が位置します．両者を連結する溝はまだ見つかっていませんが，高い位置にある酒船石と低い位置にある亀形石との比高は約27mもあります．これらが何に用いられたのかは今後プロ・アマを問わず憶測の種となることでしょう．

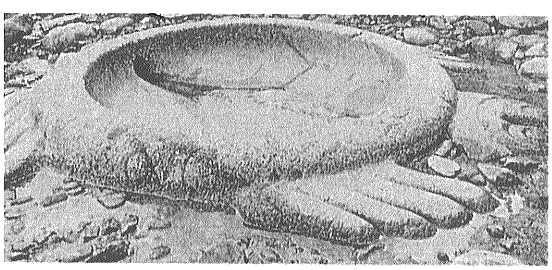

写真5　奈良県飛鳥村で出土した亀形石の水槽（朝日新聞2000.5.24朝刊）．

もっとも，従来有名だったものは，奈良県飛鳥地方橘寺西方約300mほどの田圃の中にある花崗岩巨石の下部にある亀のような獣面を刻した「亀石」です．少なくとも平安時代からそう呼ばれていたそうです．手足部分はなく製作途中の感がしますがその用途や年代は不明です．この亀の首が西を向くと大和一円が大洪水になるとの伝説があるそうです．

「楯築（たてつき）の亀石」は，岡山県倉敷市矢部の弥生時代後期の墳丘墓である片岡山上の石の祠に祭ってあった楯築神社の御神体石で，縦横90cm，厚さ30cmほどの平たい安山岩塊です．表面には，弧帯文と呼ばれる帯をぐるぐる巻いたような呪術的な模様が浮き彫りされ，その間から卵形の人の顔がのぞいています．この石自体はあまり亀には似ていないのですが，「亀」はしばしば「神」の転用語となるので，本来は，「神石」ではないかとの推測もあるほどです．江戸時代には「龍神石」とも言われたそうです．近くに同様な小型の亀石（これは流紋岩で火にかけられていたらしい）が砕かれて埋められており，調査の結果弥生時代のものと判明しました．

石彫にも亀の形をしたものがあります．例えば，石塔の一種で，亀の形を彫刻した台石の背に角柱，板柱や円柱型の石碑や墓石を建てたものを「亀趺（きふ）」と呼びます．元来は中国で特定の人物の業績を記した碑である「行状碑（ぎょうじょうひ）」に用いられた様式の1つです．したがって，そもそもこの「亀趺」という名称は「碑」そのものの代名詞でもあります．写真6は北京にある寺院の庭に置かれている「亀趺」の例で，その規模といい，デフォルメされた亀の頭部はなかなか迫力があります．わが国でも例えば東京都墨田区向島の弘福寺にある松平冠山の墓もこの「亀趺」で，天保四（1883）年の建造です．

目を中米に転じてみましょう．有名なマヤ文明は3～10世紀にかけて現在のメキシコ南東部からグァテマラ，ベリーズ，エルサルバドル北部を経てホ

写真6　中国北京にある「亀趺」.

ンジュラスに至る広大な地に栄えた一大文明圏でした．その文明の高さを表す独特のピラミッドや石の表面に浮き彫りされた各種のレリーフは多くの人々の関心を集めています．その代表的な都市の1つがホンジュラス西部のコパン川沿いにあり，400年余りにわたって1つの王朝に支配されていたことが判ってきました．その初代王ヤシュ・ククー・モー（「青いケツアル・コンゴウインコ」の意）の治世は5世紀に始まり，その後発展を遂げましたが，8世紀には衰えていきます．その興亡の原因は諸説あり議論が絶えません（Constance, 1997）．写真7は，ホンジュラス発行の葉書大ほどある世界最大の切手（縦11cm×横16cm）ですが，その図案がこのコパン遺跡です．独特のピラミッドやマヤ文字を彫刻した石碑などが配置されています．その1つに写真8に示す軟質な凝灰岩製の亀の彫刻があります．どのような意味をもつのか不明ですが独特のフォルムは印象的です．

天然の岩塊に文字を刻んだり，書いたりした「亀石」もあります．

宮城県黒川郡大和町吉岡から南西方に位置する七つの孤立峰を七ツ森と呼び，その一番南西端に孤立するのが笹倉山（506.5m）です．新第三紀鮮新世に噴出した紫蘇輝石安山岩からなる固い七ツ森火山岩が，柔らかい宮床凝灰岩上に浸食に抗して突出したものです．この中腹の標高390m付近に「亀の子岩」が位置しています．「亀の子岩」に刻まれている亀形は，明治元年（1868）戊辰の役に従軍した郷土の英雄，当時24歳の小隊長であった吉川恭輔が出陣を記念して刻んだものだそうです．

福井県坂井郡の「亀石」は，亀形の岩で，背中の部分に弘法大師が書いたという字が残っており，この字を読むと「亀石」が動くといいますが，まだ誰も読めたものがいないというのです．したがってまだ動いたことがないというわけです．うまい言い訳です．

天然の岩塊を組み合わせて亀に見立てたものもあります．例えば，高知県土佐山田町鈴ガ森の通称「古神」または「神奈備山」には，「夫婦亀石」，「夫婦亀」または「親子亀」と称される五個の石を組み合わせて頭を北に向けて重なり合った二体の「亀岩」があります．自然石を利用したものですが，目の部分は人手によって穿たれた窪みのようです．また山全体を亀に見立てて「大亀」と称することもあるとのことです．

さて，元あった場所に戻さないと祟りがあるといわれる石は種々ありますが，「亀石」にもあります．

岡山県水門町を流れる千町川が，水門湾に注ぐ

写真7　ホンジュラスのコパン遺跡を表す世界最大の切手.

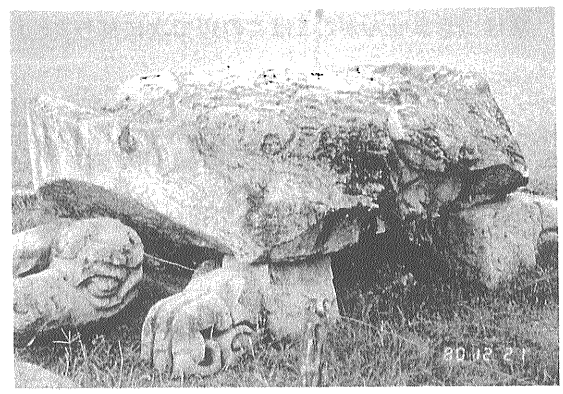

写真8　コパン遺跡の「亀石」.

河口から少し東に寄った海辺にある「亀石」は，甲羅にあたる部分が畳2畳ほどもある巨石です．干潮時には浜に浮き上がっているように見えますが，満潮時には背中まで水につかるそうです．「古事記」には，神武天皇の東征時に，吉備の速吸門（はやすいのと）で大亀に乗った釣り人に水先案内をしてもらったという話があり，その亀が化石となったのがこの「亀石」といいます．江戸中期には，池田の殿様がこの石を船で岡山城下に移そうとしたところ，旭川河口で船が動かなくなったので，この石を投げ捨てたところ夜な夜な光を発するなど不思議なことが続出し，元の場所に返して祀ったといいます．この石はまたイボ治しの神様としても知られ，さらにイボに限らず胃病などのイの付く病気なら何でも効くという民間信仰の対象ともなっています．岩質は不明ですが転石です．もちろん化石ではありません．

愛知県額田郡宮崎村大字亀穴の林端寺の東裏に亀石明神として祀られている大小数個の「亀石」には次のような伝説があります．昔，亀穴の徳三郎というものが薪を刈りに山に入ったところ白髪の老人に会い，『汝の里亀穴に亀石とて往古より村人の守護神あり．若し尊敬を缺く時は災難に罹る』と言い姿を消したというのです．徳三郎は郷里に帰り，あちこち訪ねると当時の尾州公が持っていたので譲り受け，亀穴に返し以来村人の守護神として尊敬したといいます．

長崎県対馬では亀卜用の亀を捕らえると酒を飲ませ，雷命神社の社前に供え，庚申の日に甲をはいで亀卜者に与えたといいます．下県郡厳原町阿連の浜にも「亀甲石」があり，亀卜の海の物として喜び人の拾いさるのを嫌ったといわれています．

話はつきませんがここはこの辺で次に移りましょう．

4. 天然（現地性）の亀（甲）石・亀（甲）岩

「亀（甲）石」「亀（甲）岩」と名付けられた岩塊は各地にあります．代表的なものを次にあげておきましょう．

狭義の「亀甲石」とか「亀甲岩」と呼ばれるもの（しばしば単に「亀石」「亀岩」とも呼ばれます）には成因的に大別すると二種類あります．1つは細粒の堆積岩（泥岩や石灰質泥岩など）が乾燥収縮するときの応力条件から6角形状（4～5角形状の場合もある）つまり亀甲状に発達した乾裂中に沈積した方解石（まれに重晶石・透石膏や黄鉄鉱）脈があるもので，一種の団塊（コンクリッション・ノジュール）です．たとえば，秩父亀甲石は白亜紀の石灰（質）岩です．長野県上田市から別所電鉄で約25分，終点の別所温泉にある安楽寺の庭に据えてある（本殿に向かって左側の草むらの中）直径2m以上，高さ約1m程度の偏平な甲羅状の「亀石」もこのたぐいで積物中に膠結物質が分離濃集した団塊ないし不規則塊です．新第三紀中期中新世（約1,500万年前頃）別所層の黒色泥岩から産する石灰質泥岩のかたまりで，亀の甲に似た模様が表面にあります．乾裂が内部まで達しており，一部崩壊しつつあるのが惜しまれます（写真9）．

もう1つは，塩基性（珪酸分の少ない）マグマが冷却収縮するときにできる六角柱状の節理（冷却節理，cooling joint）の断面がよく現れているものです．小さいものは磨き上げていわゆる鑑賞石として銘を付けて珍重されることもあり，また比較的大きなものは庭石として使われる場合もあります．人好きずきです．

広義の「亀甲石」とか「亀甲岩」と呼ばれるもの（同様に「亀石」「亀岩」とも呼ばれます）には狭義の石の他，単に形が亀のように見える岩塊を称する場合も含みます．岩質ごとに例をあげておきましょう．

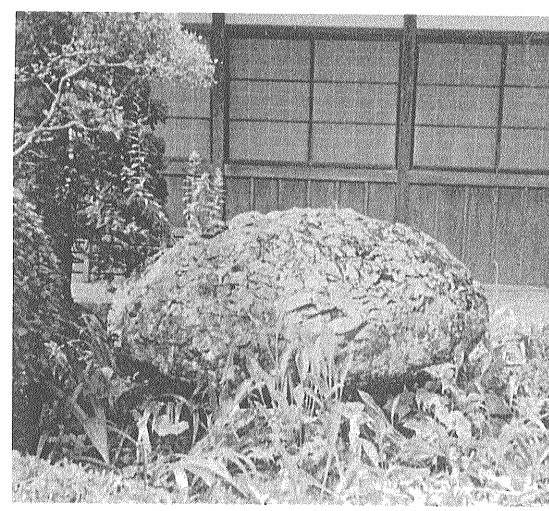

写真9　長野県上田市別所安楽寺の「亀石」．

①火山岩

長野県下伊那郡根羽村指定の天然記念物である「池の平の亀甲岩」は地上高約2.4m，幅約2.5mの柱状節理が発達した黒色の玄武岩塊で新第三紀中新世の池の平溶岩類に属します．周辺には領家変成岩類が基盤として広く分布しています．心ない人間（筆者ではありません）のいたずらで池の平の池が荒れ，泉も枯れそこに住んでいた大亀の親子は死んで岩になったという昔話があるそうです．小川川の東側のムネバタ牧場付近にも点在するそうです．ハンマーで叩くと金属音がするので地元では「カンカン石」とも呼びますが，これは本来の「カンカン石」である四国のサヌカイト（古銅輝石安山岩）とは別物です．ここから南へ県境を超えて500mほどの愛知県北設楽郡側の池ケ平牧場にも同種の「亀甲石（岩）」があります．こちらには，その昔県境を超えて雄亀と雌亀が行き来したくさんの子亀が生まれたという話があり，点在する小さな亀甲石の由来を説明しています．これは愛知県指定の天然記念物です．

福井県坂井郡三国町の東尋坊は，1935年に国の名勝および天然記念物に指定されている北陸地方の景勝地の一つで，日本海に面した高さ約25mほどの断崖をなす海食崖です．その名は寿永元年（1182），越前平泉寺にいた悪僧でその悪行の数々によってここから海に突き落とされた東尋坊の名に由来します．彼の死後，その怨念によるためか付近には怪異が続発したといいます．東尋の名は，『人は死ねば西国浄土に行く』が，悪僧の身は西国浄土に行けず，東を尋ねたということを意味するそうです（知り合いの役人にも東を尋ねる輩が多々いそうです．むろん自分のことは棚にあげてあります）．ここは新第三紀米ケ脇累層の礫岩や凝灰質砂岩・角礫岩をほぼ水平に貫く新第三紀中新世（約1,300万年ほど前）の，垂直な亀甲状の柱状節理が発達した複輝石安山岩の溶岩からなる岩床です．浸食によって，様々な奇岩が形造られ，その一つに「亀岩」と命名された岩があります．

②深成岩

宮城県金華山西海岸にあるのは，中生代白亜紀中頃の貫入とされる片状含正長石角閃石黒雲母石英閃緑岩からなる亀状の姿石です．

島根県仁多郡仁多町三成の「鬼の舌震い公園」は揖斐川支流大馬木川の中流約3kmに及ぶ花崗岩の浸食されてできたV字谷周辺のことで，1932年に国指定の名称・天然記念物となり，さらに県立自然公園でもあります．この川床にある奇岩の一つに「亀岩」があります．また，広島県・山口県の境に位置する県指定の名勝である弥栄峡の川底にある花崗岩巨礫の一つも「亀石」と称されています．

③堆積岩

吉野熊野国立公園に属し，三重県と和歌山県の境をなす熊野川の支流北山川に沿う瀞峡（どろきょう）は，佐藤春夫の「とろ八丁の記」でも知られる紀伊山地深く刻まれた峡谷で様々な奇岩・断崖が続きます．現在はウォータージェット船で志古から北山川を通って往復約2時間の観光が楽しめます．木津呂付近を通る断層は御坊−萩構造線の一部で，その南側は新第三紀中新世の熊野層群の砂岩泥岩互層が分布し，北側の下地付近までは白亜紀の日高川層群の最下位を占める丹生ノ川累層で，そのさらに北側に上位の日高川層群竜神累層が分布します．いずれも砂岩や泥岩ないしその互層からなります．瀞峡は，竜神累層分布地域にあり，さまざまな浸食や崩壊によってできた岩塊の1つに「亀岩」があります（写真10）．甲羅干しをしている亀の後ろ姿に似ているところから名付けられたのでしょう．頭部の砂岩塊は4m四方ほどあり，胴の長さは約13mで層理面に沿って広がる背中の部分は30畳余りということです．

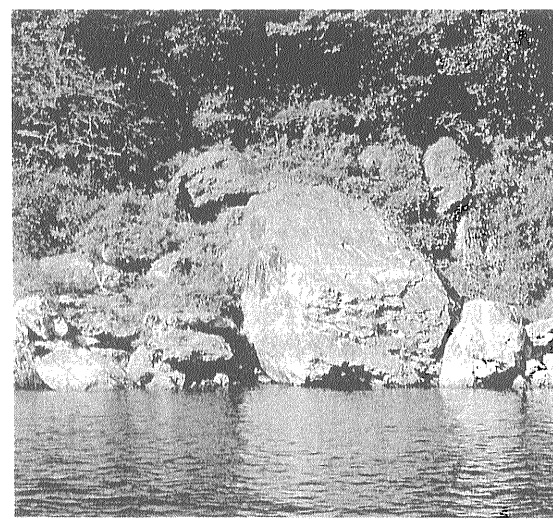

写真10　瀞峡の「亀石」（和歌山県）．

何となく亀に似た鍾乳石や石筍（石灰岩）に亀に因んだ名前を付けることはよくあることです．和歌山県日高郡由良町付近に分布する約2億5,000万年以上前の石灰岩中に発達する戸津井鍾乳洞には，「小亀石」「大亀岩」などと命名された鍾乳洞石があります．岩手県岩泉町にある日本三大鍾乳洞の1つと称される竜泉洞は中生代ジュラ紀（約1億2,000万年～1億6,000万年前）の石灰岩からなっています．やはり洞内の奇岩には様々な名称がつけられていますが，ここの「亀岩」は天井部の崩落によって床面に転がっている平たい石灰岩塊に命名されたものです．

新第三紀の凝灰岩ないし凝灰質砂岩も浸食されやすく，形状石としての「亀石」が各地にあります．千葉県鴨川市海浜の浜波太の漁港のすぐ前の渡し船で5分ほどのところに仁右衛門島があります．昔からの所有者である平野仁右衛門の家が一軒だけあったことからそう呼びならされています．弁天道という道を通って島の西端にいくと「亀岩」があります．これは前期中新世とされる保田層群の凝灰質砂岩からなっています．

群馬県吾妻川にかかる雁ガ沢橋から上流の八ツ場大橋にいたる約4kmの吾妻渓谷にある奇岩の一つに「臥亀岩」というのがあります．これは，新第三紀中新世のいわゆるグリーンタフ（緑色凝灰岩）からなっています．

④その他（岩質不明）

長野県諏訪地方には七石・七木という巨石・巨木信仰が古くからあり，神が降りるところと信じられてきました．ここの七石は「御座石」「御沓石」「硯石」「蛙石」「小袋石」「小玉石」及び「亀石」のことをいいます．他の石は現存しますが，茅野市宮川にあったという「亀石」は残念ながら洪水で流出して現在では行方不明となっています．多分亀の形になんとなく似ていた天然の岩塊だったのでしょう．

宮崎県都城市庄内町を流れる大淀川支流の庄内川上流の甌穴（おうけつ）の発達する川床を「亀甲岩」ともいいます．甌穴（ポットホールとも呼びます）は，岩盤の窪みに入った小石などが流水で回転して穴を削り広げていってできたもので，ここの甌穴は「関之尾の甌穴」として1928年に天然記念物の指定を受けています．

5. 亀の地形

さらに大きく自然界に目を広げてみましょう．地名はともかく地形にも亀に因んだ物が多々あります．例えば新潟県の佐渡島の北東端の海岸沿い，佐渡両津市鷲崎の弾埼灯台の西約3kmに「二つ亀」というのがあります（写真11）．遠望すると二匹の亀が甲羅干しをしているように見える巨岩です．ここの「カメ」という語はアイヌ語で神聖な場所を意味するそうです．干潮時には砂州ができて歩いて渡れますが，満潮時には孤立してしまいます．「二つ亀」の南西2.5kmにある大きな亀がうずくまっているような形をして海中に突き出た標高167mの半島部分やその岩塊部を「大野亀」と俗称しています．やはり亀の甲羅状の巨大な岩塊です．いずれも変質の著しい粗粒玄武岩（ドレライト）からなっています．この岩石の化学組成は玄武岩と同様ですが，ガラスを含まずより粗粒でオフィチック（輝石に多数の短冊状斜長石が透入している）組織が顕著な点で異なります．この岩塊は，付近に分布する新第三紀中新世の真更川層の植物化石片を含むシルト岩などの堆積岩に貫入したほぼ同時代の岩床が浸食されてできたものです（島津他，1972）．この他にも各地にあり，例えば，島根県隠岐の西ノ島北西部の隠岐国賀海岸にも「亀島」があります．

『浜の真砂は尽きるとも，世に盗人の種と，「亀石」の話は尽きず』，これ以外にも全国各地にありますが，あまり話が長くなると嫌われますので（もう十分嫌われているという説もありますが），この辺

写真11　「二ツ亀」遠景（新潟県，佐渡島）．

第1表　亀石(岩)リスト.

1	亀岩	岩手県下閉伊郡岩泉町竜泉洞. ジュラ紀の石灰岩. 鍾乳洞内の落石.
2	亀の子岩	宮城県黒川郡大和町. 新第三紀鮮新世の紫蘇輝石安山岩(七ツ森火山岩).
3	亀岩	宮城県牡鹿郡牡鹿町金華山西海岸. 白亜紀中頃の含正長石角閃石黒雲母石英閃緑岩.
4	二つ亀	新潟県両津市鷲崎. 新第三紀中新世の粗粒玄武岩. 浸食地形(写真8)
5	大野亀	新潟県両津市. 新第三紀中新世の粗粒玄武岩. 浸食地形
6	亀甲石	新潟県佐渡郡中山峠. 新第三紀中新世のグリーンタフ. 全国最大?
7	亀石	新潟県妙高村の山神社. 池に浮かんでいるように配置されている石.
8	臥亀岩	群馬県吾妻川の吾妻渓谷. 中新世のグリーンタフ(緑色凝灰岩).
9	亀石	長野県上田市別所安楽寺. 中期中新世別所層の黒色泥岩中の石灰岩質塊(写真9).
10	亀石	長野県茅野市宮川. 諏訪の七石の1つ. 流出して不明.
11	亀石	山梨県御岳昇仙峡. 中新世中粒角閃石黒雲母花崗閃緑岩～花崗岩
12	亀岩	千葉県鴨川市仁右衛門島. 前期中新世保田層群の凝灰質砂岩.
13	池の平の亀甲岩	長野県下伊那郡根羽村. 新第三紀中新世池の平溶岩類. 黒色の節理の発達した玄武岩塊.
14	亀甲石	愛知県恵那郡稲武町池之平(9と同種)
15	亀岩	福井県坂井郡三国町の東尋坊. 新第三紀中新世複輝石安山岩の溶岩.
16	亀石	福井県坂井郡. 岩質不明. 弘法大師伝説
17	亀石	愛知県額田郡宮崎村大字亀穴の林端寺. 岩質不明. 亀石明神
18	亀形水槽	奈良県明日香村. 花崗岩. 約1300年前の飛鳥時代製(写真5).
19	亀石	奈良県飛鳥地方橘寺西方. 花崗岩巨石. 亀のような獣面.
20	亀岩	和歌山県瀞峡. 白亜紀の日高川層群竜神累層の砂岩(写真10).
21	大亀岩	和歌山県日高郡由良町戸津井鍾乳洞. 中生代の石灰岩. 子亀岩もある.
22	亀山石	兵庫県加古川市. 溶結凝灰岩
23	亀石	岡山県倉敷市矢部. 楯築の亀石. 安山岩. 楯築神社の御神体石.
24	亀石	岡山県水門町. 転石. 岩質不明.
25	亀岩	島根県仁多郡仁多町三成の「鬼の舌震い公園」. 花崗岩
26	神亀岩	島根県出雲市立久恵峡. 安山岩集塊岩の浸食.
27	亀石	広島市西端の弥栄峡. (白亜紀～)古第三紀の花崗岩巨礫.
28	亀岩	鳥取県気高郡青谷町. 夏泊海岸
29	夫婦亀石	高知県土佐山田町鈴ガ森. 別名「大亀」
30	立亀岩	長崎県対馬の厳原港にある石英斑岩の海食崖.
31	亀甲石	長崎県対馬阿連の浜. 亀卜に使用. 転石. 岩質不明
32	亀甲岩	宮崎県都城市庄内町. 第四紀更新世中～後期の入戸(いと)火砕流堆積物のデイサイト質凝灰岩. 関之尾の甌穴.

でお開きにしましょう. 本文にあげた「亀石(岩)」を含めて紹介しきれなかったものを第1表に掲げておきます. これ以外にも多々あると思いますが, ご存知の読者がおられましたら著者に御教示くだされば幸いです.

引用文献

Constance, C. (1997) 五十嵐洋子訳(1998):開かれた古代世界の謎5沈黙の都市マヤ. 39p. 主婦と生活社.

遠藤祐二・加藤碩一(2001):菊の石. 地質ニュース, no.557, 59-63.

亀井節夫・後藤仁敏・大森昌衛責任編集(1981):古生物学各論4脊椎動物化石, 477p, 築地書館株式膾炙.

島津光夫他12名(1972):日本油田・ガス田図11「佐渡」(1:50,000). 地質調査所.

KATO Hirokazu and ENDO Yuji (2001): Stones/rocks named after tortoises/turtles.

＜受付:2000年12月19日＞